

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

マネーボール

2011年・アメリカ映画
配給/ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント
133分

2011 (平成23) 年 10月 17日鑑賞

GAGA試写室

Data

監督：ベネット・ミラー

原作：マイケル・ルイス『マネー・ボール』

出演：ブラッド・ピット/ジョナ・ヒル/フィリップ・シーモア・ホフマン/ロビン・ライト/クリス・プラット/ステイブン・ビショップ/ケリス・ドーシー

👁️👁️ みどころ

日本でもGM=ゼネラルマネジャー制度が定着してきたが、GMとオーナー、監督、選手間の連携は難しい。いくら勝っても観客動員数が伸びない中日ドラゴンズの落合博満監督の退任劇をみれば、球団経営も商売？

他方、「ゼニさえあれば常勝軍団！」とならないことはヤンキースやレッドソックスそして読売巨人軍を見れば明らかだし、逆にアスレックスのような弱小、貧乏球団だって、「マネーゲーム理論」さえあれば・・・。

「野村イズム」との共通点を考えながら、秋の夜長の勉強ネタにするもよし。男の生きザマの参考にするもよし。本作はまさに考えるネタの宝庫！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■GMとは？ブラッド・ピット演ずるこのGMに注目！■

日本のプロ野球におけるゼネラルマネジャー（GM）という肩書きの第1号は、1995年に千葉ロッテマリーンズのGMに就任した広岡達朗とされている。しかし、「オレ流」の落合博満監督と同じように（？）個性の強かった広岡GMは、フロントや監督との確執を生むとともに、それまでよく使われていた「球団代表」という肩書きとの異同が明確でなかったこともあって、日本ではGMという肩書きは定着しなかった。日本ハムの大沢啓二や西武ライオンズの根本陸夫は実質的なGMとしてそれぞれ大きな功績を残したが、ブラッド・ピット演ずるこのGMは？

高校時代のビリー・ビーン（ブラッド・ピット）は、走・攻・守3拍子そろったかつての長嶋茂雄以上の5拍子そろった選手だったが、有名大学からの誘いを蹴って高卒でニューヨーク・メッツに入団した後は予想に反して低迷の日々が続いたらしい。トレードで数

チームを渡り歩いたあげく、10年で選手生活に見切りをつけ、自らスカウトマンに転身したが、2002年の今アスレチックスの若きGMとなったビリーは、アスレチックスにどんな改革を・・・。

■常勝軍団の形成はゼニ次第？それとも・・・■

アメリカでは03年に松井秀喜を獲得したニューヨーク・ヤンキースや06年に松坂大輔を獲得したレッド・ソックスが常勝軍団だが、それは松井に3年契約、2100万ドル（約25億4000万円）、松坂に6年契約、5200万ドル（約61億円）をポンと出せるほどの金持ち球団だから？逆に本作が描く02年のシーズン開幕を控えたアスレチックスのように、前年活躍した数少ないスター選手を金持ち球団に奪われてしまうと、もはや打つ手なし？

球団の総予算が金持ち球団の何分の1という状況では、最初から対等な条件での戦いとは言えないのでは？ビリーは最初からそんな疑問をアスレチックスのオーナーにぶつけていたが、それは日本でも同じで、読売巨人軍と広島カープとでは資金力に大きな格差がある。日本では、金にまかせて有力選手を獲得することに歯止めをかけるべく01年にドラフト制が採用されたが、それにもいろいろな抜け道があるため(?)、結局、常勝軍団の形成はゼニ次第？それとも・・・。

■マネーボール理論とは？■

本作は、ビリーがイェール大学出身の秀才であるにもかかわらず他球団の事務部門で働いていたピーター・ブランド（ジョナ・ヒル）を「こいつは面白い奴だ」と直感して引き抜き、ピーターとの共同作業によって、後に「マネーゲーム理論」と呼ばれる「低予算でいかに強いチームを作り上げるか？」という独自の理論を周囲の反対に屈せず、信念を持って実践していく物語。スカウトたちが長年の経験とカンによって選手の良し悪しとその年俵を決めるという従来のやり方を改め、コンピューターによる統計分析に基づいて選手を獲得し、その年俵を決めていくというビリーとピーターの新しいやり方が当初ブーイングを受けたのは当然だ。

しかし、今やプロ野球は、一人のピッチャーによる「完投型」から、先発・中継ぎ・抑さえという投手の「分業制」に切り替わっているし、長嶋茂雄を代表とする「コンピューター野球」から野村克也を代表とする「データ重視野球」に切り替わっている。そう考えると、ビリーの「マネーボール理論」はあまりにも当然の理論？

■「マネーボール理論」の適用は？■

本作の前半は、他球団に引き抜かれてしまったアスレチックスの看板選手の後釜探しに苦勞するビリーやアスレチックスのスカウトたちの姿が描かれる！そこでピーターのアド

バイスを取り入れたビリーが下した決断は、「年齢が高い」「故障を抱えている」「トラブルメーカーである」等の問題を抱えた選手を寄せ集めること。もっとも、「打てなくても四球を選べばいい」は私にも分かるが、キャッチャーとしての盛りを過ぎたスコット・ハッテバーグ（クリス・ブラット）を安く獲得するにあたって、「一塁を守れ」と指示したのはかなり乱暴では？。現場で采配を振るうアスレチックスのアート・ハウ監督（フィリップ・シーモア・ホフマン）がビリーのそんな指示（？）に反発したのは当然だが、まさにこれぞ後に「マネーゲーム理論」として花開いたビリー独自の理論だ。

周囲の心配や反発をものともせず、ビリーはピーターと共にそんな「マネーゲーム理論」を実践したが、シーズンが開幕するとアスレチックスは連戦連敗の毎日。そのため、夏場のオールスター戦を待たずに「GMの解任か？」と囁かれたり、ビリーのわがままのために離れていった元妻のシャロン（ロビン・ライト）との間のかわいー一人娘ケイシー・ビーン（ケリス・ドーシー）まで心配させたが、何と更なる「改革」を断行した後アスレチックスは、ア・リーグ始まって以来の公式戦20連勝という偉業を達成することに・・・。



『マネーボール』11/11（金）大阪ステーションシティシネマ他全国ロードショー
配給：ソニー・ピクチャーズ

■□■真弓は？星野は？落合は？そして日米の違いは？■□■

星野仙一監督によって輝きを取り戻した阪神タイガースを再び低迷させてしまった真弓明信監督の辞任（本当は解任！）は当然だが、就任以来一貫して好成績を残し、今年も終盤の大逆転で見事セ・リーグ優勝（2連覇！）を成し遂げた中日ドラゴンズの落合博満監

監督の退任劇にはびっくり。いくら勝ってもお客が入らなければ困ると考えてしまう球団オーナーは、何ともわがままなものだ。また、監督は現場の戦闘集団の総責任者だから、オーナーやGMから選手起用や戦術についてとやかく言われるとやっつけられないのは当然。さらに、プロ野球選手は一人一人が個人経営者でプライドを持っているから、阪神時代の江本孟紀が「ベンチがアホだからやっつけられない」と言っただけなのは、けだし名言だ。

ビリーが選手の獲得を必死にオーナーに訴えている姿や、せっかく獲得した元キャッチャーで今年は一塁手としての活躍を期待しているスコットをアート監督が使わないことに業を煮やしている姿を見ていると、オーナー、監督、選手とGMの役割分担がいかに難しいかがよくわかる。また、アメリカのプロ野球は人情味の厚い日本のプロ野球と違って、突然のトレードやその日の解雇も常識であることがよく分かる。選手と個人的な繋がりを持つと即座の解雇が出来にくくなるから試合は見ない、というビリーのスタンスを聞いていると、アメリカの勝負の世界が日本以上に厳しいこともよく分かる。

■□■オーナー、監督、選手とGMとの連携は？■□■

開幕以来アスレックスがどん底状態になったのは「マネーボール理論」の失敗ではなく、ビリーの意図をきちんと理解しないアート監督や選手のせい。それが、ビリーの確信だ。そこで、ビリーのアドバイス（指示？命令？）に頑として従わないアート監督のやり方に業を煮やしたビリーは、監督が起用にこだわっている選手を次々と放出したから、これには監督もビックリ。現場の指揮は監督権限だが、選手の獲得と放出はGM権限だから、こんな荒唐治の前についてアート監督はスコットを一塁手として起用せざるを得ないことに。

ヤクルトは、1990年に監督に就任した「野村克也 I D 野球」が意外に早く選手に浸透したこともあって92年、93年、95年、97年4回のリーグ優勝と93年、95年、97年3回の日本一を果たしたが、ワガママ選手が多かった阪神（？）は野村監督が就任した99年から01年までの3年間をもってしても浮上しなかった！しかし、その時に野村監督が阪神に蒔いた種がその後星野監督になってから花開き、03年のリーグ優勝に結びついたことは間違いないだろう。しかし今、アスレックスのビリーの場合は3年間もの余裕はない。明日からでも猛反撃し、V字カーブを描かなければビリーは即クビの運命だが、02年のシーズン後半、何とアスレックスはまさにその奇跡を！

■□■決断、決断、また決断！■□■

昨今何かと控えめな「どじょう内閣」こと野田佳彦総理の実行力に疑問の芽が吹き出していることは、「内閣不支持率」の上昇によって明らかだが、日本の歴代総理の中で実行のスピードと決断力が際立っていたのが小泉純一郎元総理。しかし、本作全般を通じてのビリーの実行力を見ていると、そのスピードと決断力は小泉元総理以上だ。

「こいつは面白い」と直感してピーターを「側近」として招き、「マネーボール理論」に命をかけたところをみると、竹中平蔵氏を側近として招いた小泉元総理が、郵政民営化法案が否決されるや即衆議院を解散して総選挙に打って出たのと同じように、ビリーも「常識なドクソくらえ！」と思っていたはずだ。世間の期待を一身に背負った選手時代の栄光はすでに過去のものとなり、さらにかつては最愛の妻だったシャロンからも、わがままぶりに愛想をつかされたビリーにとって、今や失うものは何もない。本作に見るような決断をビリーが次々に下すことができたのは、きっとそんな心境になっていたからだろう。決断！決断！また決断！の姿を今こそ野田総理も学ぶべきでは・・・？

■これぞ人間ドラマ！これぞ男の生きざま！■

藤川球児という絶対的なリリーフエースをはじめ有能な選手をたくさん有している阪神タイガースは、ビリーのようなGMや落合博満のような決断力を持った監督が出現すれば、その浮上は可能なはず。また、民主主義の悪い所ばかりが溜まってしまった現在の日本の浮上は難しいが、それだって小泉元総理のような「変わり者」が出現すれば可能なはずだ。ポストシーズンでは惜しくも敗れたものの、弱小・貧乏球団のアスレックスをA・リーグの地区優勝チームまで押し上げたビリーを、レッドソックスのオーナーが破格の待遇でGMとして迎え入れようとする本作ラストの展開は面白い。

人間は何でも金で動くものではないが、金額はその人に対する評価であることは間違いない。大金を受け取りながら期待を大きく裏切ってしまった男の代表はヤンキースに移籍した阪神タイガースの元エース井川慶だが、さて、ビリーはそんな招聘に何と応えるのだろうか？これぞ人間ドラマ！これぞ男の生きざま！さあ、本作に見る、ビリーの最後の決断とは？

2011（平成23）年10月19日記

松井VSイチローが開幕戦で激突！

1) 出場機会が減少していたヤンキースからアスレックスに移籍した松井秀喜選手は、中軸に起用したメルビン監督の期待に応え見事に復調したが、1年契約だから来期の所属は未定。松井はもちろん監督も残留を希望しているが、『マネーボール』のビーンGMの決断は？他方、200安打、3割の連続記録が途絶えたイチロー選手の来期は、マリナーズ

での5年契約の最終年。来期への復調に向けたトレーニングが注目される。

2) そんな中、米大リーグは来年3月28日、29日に東京ドームでアスレックスVSマリナーズの開幕試合を行うと発表した。2人とも年齢的にピークを過ぎたことは否定できないが、さてその激突は？

2011（平成23）年11月9日記